



進路指導室だより

平成30年度 第7号 (11月30日発行)

大きな流れの中で



地球には、地表の上に大気圏という空気の層があります。空を見上げるときれいな青空がありますが、そのさらに上方の高いところ、高さ約1万2000メートル(200 hPa)付近に、空気の大きな流れがあります。その流れを「ジェット気流」といいます。この気流はとても早い空気の流れて、冬季には風速100 m/s以上になることもあり、地球の地表面の年間の気象

に大きな影響を及ぼしています。

海にも、赤道から南極や北極に向かって流れる「大きな海流」がいくつもあります。これらの流れは、私たちの目で見ることはできませんが、うねり状の大きな流れが、地球規模の大きさで一定方向に流れています。こうした流れが地球全体の温度変化を左右し、地表の気象現象はもちろん、私たちの生活全般に大きな影響を与えています。

地球の表面は、山や谷のでこぼこした地形になっているので、私たちの住んでいる地表面は色々な方向の風が吹いて、複雑に変化していますが、「ジェット気流」や海流は一定方向に流れていて、年間の大きな季節変化を起こしているのです。だから、この「ジェット気流」の動きを観察すると、地球の各地域の広範囲の年間気象現象が手に取るように分かるのです。

地球の季節の変化は、この巨大な「ジェット気流」が大きな影響を及ぼしますが、私たち人間の場合、この気流に相当するものは何でしょうか？

それは、グローバルな視点で見たときの世界の流れだと考えます。地球規模で進行する環境問題、少子高齢化が進み世界のどの国も経験したことのない「超高齢化社会」になる日本(本校の研究テーマ)、先進国の一部の人間に集中する資本など、少し注意深く周囲を見渡せば、モノやヒトの流れはもちろんのこと、社会の大きな「流れ」に気づくはずですが。そうした流れの中で、自分は何をなすことができるのか、あるいはなさなければならないのか分かることもあると思います。みなさんには、まだ流れを変える力はないかもしれないけれども、それに気づくことで問題の所在は意識できます。

ただ、こうした流れは意識しないと気づかないし、気づくことができません。日々の生活に疲れたら、たまには青空を振り仰ぎ、「大きな流れ」に思いをはせて見るのも良いのでは。

質問 志望校を早めに決めることは大事でしょうか。

先日、1・2年生対象にSGHパネルディスカッションが開催されましたが、途中で溝上慎一氏の記事「高校教育は生徒、学生の資質・能力を育てる最後の主戦場」を紹介しました。その中で「2つのライフ」という項目がありました。自分の「将来」と「今」という2つのライフについての項目です。将来に対して「見通しあり」の生徒は、日々将来に向かって「実践」していることがよくあります。しかし、「見通しなし」の場合は、将来に向かって努力することはあり得ません。つまり、将来の見通しを持つことが肝要なのです。

さらに溝上氏は続けて次のことを述べています。まず、現在「見通しあり、実践あり」という生徒が減っていること。そして、高校で「見通しあり、実践あり」でなかった生徒は、大学に入ってもその状態が続くということです。そして、この「2つのライフ」が実は、「主体的学習態度」と深く結びついており、その「主体的学習態度」が「コミュニケーション能力」「計画実行力」「社会文化探究心」等と結びついているという事実を示しています。つまり、将来の「見通しあり・実践あり」という姿が将来の自分をも決めているという可能性を示唆しています。

志望校を決めることは、単に自分の行きたい学校を決めることではありません。実際は決めた後の行動や自分の学習などに対する態度をも決めていくことを示すのです。

現在まだ志望校が未定あるいははっきり決まっていない場合は、待っていても「将来」像が急にはっきりすることはありません。やはり、前向きに挑戦することが大事なのだと記事は教えてくれています。さて、あなたはどうでしょうか。

(溝上氏の記事：http://souken.shingakunet.com/college_m/2018_RCM213_06.pdf)

【読書のすすめ】**論理的思考力をきたえる「読む技術」 出口汪**

先日、センター試験の後に実施予定の新テスト（正式には「大学入試共通テスト」というのだそうです。）の試行試験が行われました。問題が新聞等に掲載されていたので目にした人も多いのではないのでしょうか。

今回の新テストの特徴として、従来のマーク式に加え、記述式の問題が導入されることはご存じかと思います。ここで必要とされる能力の一つに「論理的思考力」があります。

今回紹介するのは、その論理的思考力を鍛える本です。著者は、受験現代文の神様、出口汪さんです。参考書などで一度はお目にかかった名前なのではないのでしょうか。

著者は、この本の目的を「読書を通して、論理力を養成すること」とし、技術として論理力を身につける方法を、わかりやすく説明しています。その中の一つに「名作で頭脳を鍛える」という項があります。「名作を読むとは、言葉で徹底的に構築された世界を甘受し、自己の脳裏に新たな世界を再構築させる行為だ」と述べています。一年生は「城の崎にて」を現代文の授業で学んで、近代小説の奥深さを実感したことでしょう。この本を通して論理的思考力を獲得し、より豊かな人生を送りませんか？

